

平成 30 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア・アフリカ講座・准教授
氏名 Name	竹原 新
専門分野 Academic Field	イラン民俗学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究
<p>平成 30 年度は、主に科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）による「イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究」（基盤研究（C）、平成 26-30 年度）を研究課題とするプロジェクトの研究活動を行った。具体的には、次の 3 点を中心に研究活動を行った。</p> <p>（1）イラン・イスラム共和国テヘラン州内において口承文芸に関する調査を行った。シーア派イスラムの哀悼儀礼が行われるモハラム月の当たる時期であったため、この儀礼に関する映像・画像等の資料を収集した。この儀礼は、掛け声や所作などを含め口頭で伝承される部分の多い重要なイラン文化の一つである。また、例年通り、前年度以前の調査における不明箇所の確認調査を行い、伝説や俗信の事例を中心に新規に録音を伴う対面調査を行った。</p> <p>（2）以前に収集した口承文芸資料の構造化に係る作業を行った。この作業においては、例年通り、ペルシア語の知識を有する大学院生の補助者を活用した。</p> <p>（3）昨年度に発表した「イランの憑霊譚」に続くイランの怪談についての研究を進め、「イランの妖怪制御譚」としてまとめた。イランの妖怪憑霊譚と妖怪制御譚は、一見、別々の話群に見えるが、それぞれの核モチーフは「妖怪が人間を『制御』または人間に『影響』している状態」及び「人間が妖怪を『制御』または妖怪に『影響』している状態」という相互に対立する概念に基づいているもので、この意味で両者が表裏一体の話群であると言えることなどを示した。この成果は、『イラン研究』第 15 号（大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻（専攻言語ペルシア語）、平成 31 年 3 月刊行予定）に掲載される予定である。</p>	